

東松島市立鳴瀬第二中学校

2014年 12月 15日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 『東日本大震災における学校の対応 鳴瀬第二中学校』宮城県 東日本大震災に係る教育関連記録集
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/12398.pdf>

【場所】

海岸から約430mの位置にある。
住所:宮城県東松島市野蒜南余景66
※ 鳴瀬第二中学校と統合して鳴瀬未来中学校として再開。

【東日本大震災による被害】

津波により校舎2階、体育館が浸水。
※ 現在校舎は取り壊されている。



赤い範囲:東松島市

【震災当日の様子】

震災当日の午前中は卒業式が行われていた。午後には生徒は下校しており、地震が起こった時に学校にいたのは教職員14名と部活動中の生徒10名と来校していた業者1名であった。また、卒業生41名とその保護者37名は学校から100mほど海岸に近い「かんぼの宿」で昼食会を開いており、午後14時頃から校長と3年団の教職員4名も出向いていた。

地震が起こった時、学校では地震発生から数分後に教頭が防災無線で大津波警報を確認し、マニュアルで二次避難場所に指定されている北校舎2階へ避難を始めた。10名の生徒の内2名は保護者が迎えに来たため引き渡した。後日2名の無事は確認されている。15時40分に津波が校庭に到達するのを1階にいた教職員が確認。学校付近にいた3名の地域住民を北校舎2階へ誘導して避難した。津波は南校舎の2階床上に達したがベランダのコンクリート壁に守られ、北校舎2階の教室は直撃を免れた。また、北校舎の1階入り口を破壊して侵入してきた水は2階に向かう階段を這い上がったが、2階床面の一步手前で止まった。

一方、昼食会の開かれていたかんぼの宿では1年次の担任からのビデオレターを上映している時に地震が起こった。支配人から「6mの大津波警報が出ているので上階に避難する」という指示があったため、教職員が生徒と保護者を2階、3階へと避難誘導した。しかし、より大きな津波が予想されたため、他の宿泊客と共に最上階である4階へ移動した。10mを超える津波が襲来する可能性があるという情報が入り、支配人の判断でさらに屋上へ全員避難した。15時30分頃、外は猛吹雪で寒く、また大津波警報が6mになったこともあり4階へ引き返した。15時40分頃、津波が到達しかんぼの宿の2階まで浸水した。(1)

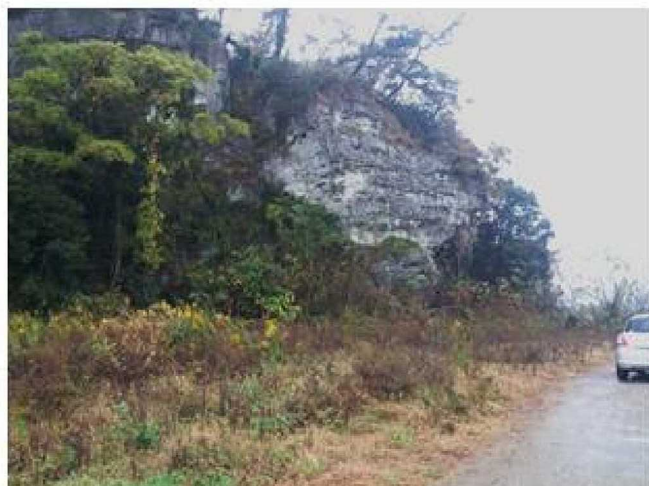
【調査して言えること】

学校の標高は2mほどで、海からも約430mと近く、地震の際に津波を警戒した避難の必要な学校である。学校のすぐ横に小さな山はあるが、登れるような斜面の山ではない。およそ1kmほどの道のりで学校の北に位置する野蒜駅のさらに北にある山に行くことができるが、行く途中で運河があり津波からの避難を考えると注意が必要である。



南から見た学校跡地(2014/11/1撮影)

※ 土が盛られている所に校舎があった。



学校の南側にある小さな山(2014/11/1撮影)

※ 険しい斜面で登ることは不可能。



学校とかんぼの宿(Googleストリートビュー(2013年2月)より)

※ かんぼの宿は学校のすぐ近くにあったことが分かる。